

総研大ニューズレター

第 21 号 2010. 2 発行

● 目次

- 【今月のトピック】 「葉山高等研究センター研究プロジェクト全体報告会開催」 葉山共通事務室
「国立情報学研究所 第 6 回市民講座開催」 国立情報学研究所
「第 312 回歴博講演会開催」 国立歴史民俗博物館
「先導科学研究科オープンキャンパス開催」 葉山共通事務室

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定

- 3 月 8 日－10 日 総研大 アジア冬の学校 (JAXE 相模原キャンパス)
3 月 23 日 学術交流会 (湘南国際村センター)
3 月 24 日 学位記授与式 (葉山キャンパス)
3 月 24 日 長倉研究奨励賞・総合研究大学院大学研究賞
発表会・授与式 (葉山キャンパス)

【編集後記】

【今月のトピック】

「葉山高等研究センター研究プロジェクト全体報告会開催」

葉山高等研究センターでは、1 月 14 日と 15 日の 2 日間に渡り、「葉山高等研究センター研究プロジェクト」の全体報告会を湘南国際村センター国際会議場にて開催しました。

この全体報告会は平成 17 年度から現在まで 5 年間に渡り推進された高等研プロジェクトの総決算といえる成果の発表の場として企画され、口頭発表 11 名、ポスター発表 22 名の計 33 名の研究課題代表者が一同に集まり、研究活動の成果及び今後の展望について発表がなされました。

発表数が多く限られた時間配分の中で熱のこもった発表が繰り広げられ、両日とも聴講者から活発な質問・意見が出され、大盛況のうちに終了しました。

平成 22 年度よりセンターの事業は変革することとなりますが、今後の事業発展に寄与することになると思われます。



【文責 葉山共通事務室】

「国立情報学研究所 第6回市民講座「社会を変える情報学」開催」

情報・システム研究機構 国立情報学研究所 (NII) は平成 21 年 12 月 14 日 (月)、平成 21 年度第 6 回の市民講座「社会を変える情報学」を開催しました。本講座は年間 8 回、NII の研究者が情報学の先端を具体的なキーワードを切り口に一般向けに解説するもので、今回は NII の相原健郎准教授が「生活を見守るライフログ物忘れがなくなる社会は実現するか？」というテーマで講義をおこないました。

携帯電話や街中に設置されたセンサーなどが私達の行動を見守りサポートしてくれる情報技術について、その取り組みや問題点などを解説し、100名を超える参加者はライフログの様々な事例についてスライドを使った説明に熱心に聞き入りました。参加者からはログの最新の動向が分かった、また講師の行っているプロジェクト (渋谷、自由が丘での実証実験*) の紹介が印象に残ったなどの感想が寄せられ、関心の高さが伺われました。質疑応答は、質問用紙に書かれた多くの質問を市民講座コーディネータ (稲邑哲也NII准教授) が分かりやすく取りまとめ、講師から回答を引き出しました。時間内に回答できなかった質問への回答と講義映像、当日の配布資料は国立情報学研究所のホームページで公開いたします。

今までおこなわれた市民講座の映像、配布資料、質問への回答そして今後のスケジュールもNIIのホームページでご覧いただけます。

(国立情報学研究所 <http://www.nii.ac.jp/shimin/>)



- * 渋谷での実証実験「Pin@clip ピナクリ」は、渋谷で過ごす人たちが「iPhone」を媒体として、「おもしろい、お気に入り」情報を街で書き込み、ユーザ間でシェアすることで新しい発見を広げていく iPhone アプリケーションのサービスです。3月10日まで実施中です。詳細は、<http://pinaclip.jp/>をご覧ください。

【文責 国立情報学研究所】

「第 312 回歴博講演会開催」

平成 21 年 12 月 12 日（土）に国立歴史民俗博物館において、第 312 回歴博講演会が開催されました。講師である文化科学研究科日本歴史研究専攻の西本豊弘教授より「生業からみた旧石器から縄文」と題して、最新の新しいデータの紹介とともに、問題点について講義していただきました。以下、講義の内容を紹介致します。



はじめに

日本列島の旧石器時代と縄文時代の生活がどのように異なるのか、また旧石器時代人と縄文人が遺伝的につながるのかはまだ分かっていない。その原因は旧石器時代の人骨が出土していないことや動物骨の出土も少ないことである。旧石器時代の遺跡を発掘しても出土するのは石器だけであり、炉などの遺構が残っていることも少ない。住居がどのような構造であったかほとんど分からない。ここでは、旧石器時代の狩猟活動について、私が現在行っている調査を中心に紹介したいと思う。

<旧石器時代の生業>

旧石器時代の生業活動については、縄文時代と同様に狩猟活動が盛んに行われたと推定されているが、実態は分からない。縄文時代の狩猟活動は、遺跡から大量の動物骨が出土しているので、シカとイノシシを主な対象とした狩猟活動であったことが分かっている。問題は旧石器時代であり、一般的にナウマンゾウやバイソン、オオツノジカなどの大型動物を狩猟していたといわれている。それらの大型動物は寒冷な時期に生息しており、温暖な後氷期になる前に絶滅したといわれている。一方、日本の旧石器文化は約 3 万 5 千年前に始まり、当時生息していた大型動物を狩猟対象としたとされるが、石器と動物骨が伴って出土した遺跡はこれまでに確認されていない。

<化石研究と旧石器研究>

日本では、ナウマンゾウやオオツノジカなどの研究は哺乳類化石を専門とする古生物学者によって行われている。一方、旧石器研究を専門とする考古学者は、石器の作り方に注目して、石器の分類を主に研究しており、石器をどのように使うか、また対象とする獲物は何であったのかについてはほとんど研究されていない。動物骨を分類できる旧石器研究者もいない。化石研究者と旧石器研究者の共同研究もほとんど行われていないのが実情である。

<花室川のアシカ>

このような研究状況の中で、2007 年秋に筆者のところに茨城県花室川産の動物骨を見てもらいたいという依頼があり、発見者がその資料を持ってこられた。私は動物考古学を専門としており、しかも海生哺乳類についても、これまでにアシカ類を中心に多量に発掘し分類・研究を行ってきた。そのため、その資料は一見してすぐにニホンアシカのオスの左側上腕骨と分かった。しかしその資料は水に濡れているせい少し重かったのが気にかかった。そこで乾燥して写真を撮ることにして預かることにした。約 1 カ月後になって水分が乾燥した後も重いことから、年代測定を試みることにした。その当時、私の研究室では科研費で炭素 14 年代測定を中心とした学術

創成研究を行っていたので、この骨からコラーゲンを採取して年代測定を行う技術を持っていた。それで、総合研究大学院大学の大学院学生にアシカの骨を少し切り取るように指示した。しかし、学生からは骨が硬くて小さなヤスリでは切れないという。その時、その骨が古い時代の化石で年代測定をしても測定範囲を超えるのではないかと思ったが、思い切って骨を少し大きく切り取り、コラーゲンの抽出を行った。そして、AMS法による炭素 14 年代測定を行ったところ、約 2 万 8 千年前(実年代では約 3 万 1 千年前)という測定結果が得られた。この年代はヴェルム氷期に当たり、また旧石器人が生活した時期である。そこで、アシカの産出地点を訪ねると、そこは霞ヶ浦に注ぐ花室川という小さな川の中であった。花室川は 1 9 7 0 年ころまでに浚渫されて、そのころからナウマンゾウの化石が採集されるようになっていた。そして筆者が現地を訪れた時、バイソン(野牛)の骨も出土していることが分かった。ナウマンゾウとバイソンとアシカが一定の範囲に死亡していたことになり、すべて自然死したというのは不自然である。時代が異なるのか、人が狩猟したものかのどちらかであろうと考えた。



花室川産出のニホンアシカの雄の左側上腕骨

<3 万年前の霞ヶ浦は大平原>

しかも、調べてみると花室川の両岸の丘には約 3 万年前から旧石器時代の遺跡が多数存在することが分かった。約 3 万年前のヴェルム氷河期では、海水面は現在よりも 1 0 0 m 以上低かった時代である。その頃の霞ヶ浦は大平原で、その中を古鬼怒川が流れて銚子の沖合で海に注いでいたと推測される。当時の海岸からアシカが見つかった地点まで約 4 0 k m あり、アシカが自分で遡るとは考えにくい。花室川に沿って生活した人々が、アシカの骨が産出したことに関係しているのではないかと推測した。また、ナウマンゾウやバイソンが霞ヶ浦大平原で生息していたとしたら、それらを狩猟したに違いないと推測した。つまり、花室川で出土したナウマンゾウやバイソンは、旧石器時代人が捕獲した獲物の可能性が高いと考えたのである。そこで、この地域で旧石器と動物骨を探すこととして、まず川さらい調査を実施することとした。

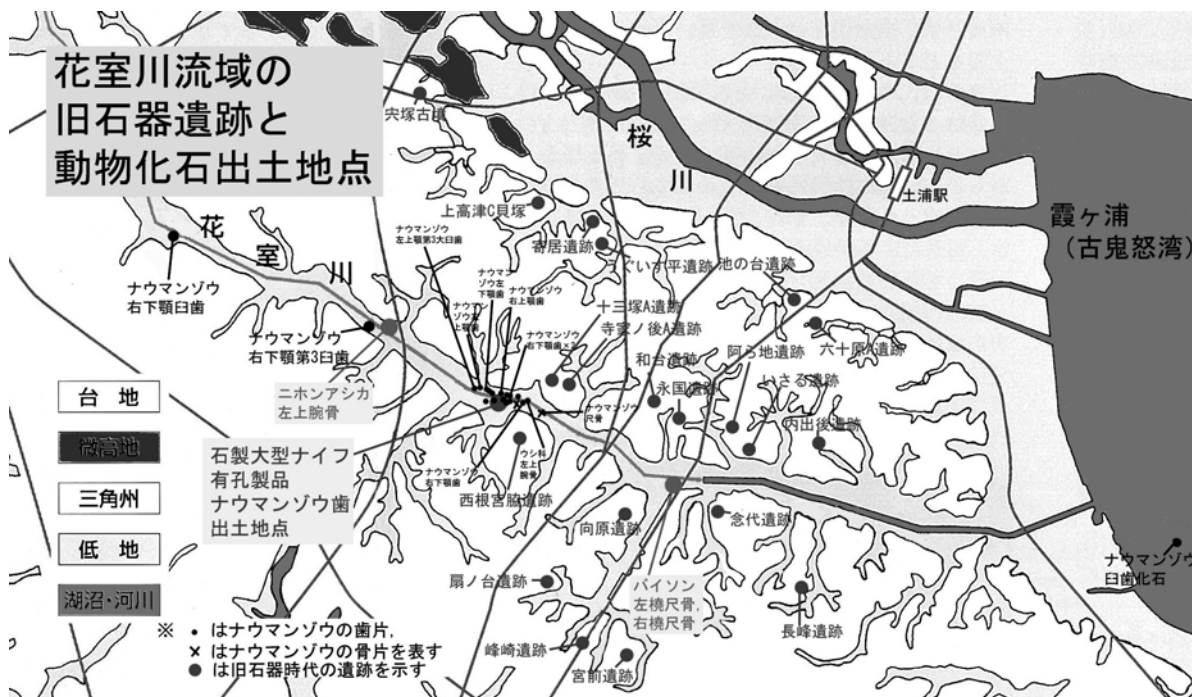
<旧石器とナウマンゾウの発見>

そこで、2008 年夏に花室川の川さらいを行ったところ、同じ地点でナウマンゾウの歯の破片と安山岩製の大型剥片石器 1 点を発見した。また、少し離れた地点では砂岩製の有孔石製品を 1 点採集した。またトウヒ類などの植物遺体も採集した。大型剥片石器については自然石であって石器ではないという意見と旧石器あるという意見に分かれた。安山岩製の石器はこれまで日本ではあまり注目されていないが各地で出土している。また、砂岩製の有孔石製品は、少し時代が下がるが愛媛県上黒岩遺跡から出土しており、有孔石製品は他の旧石器遺跡でも出土している。

<現在の調査状況>

そこで、花室川流域の旧石器文化を研究するために、2009 年度より文部科学省の科学研究費により、この地域の調査を始めた。まず、環境復元を行うこととして、約 4 万年前から 2 万年前の動植物を調査し、花粉分析用の資料も採取した。それらは現在分析中であるが、2008 年度に採集したナウマンゾウの歯の年代は約 4 万年前であることが分かった。また、その頃はトウヒやカバノキなどの寒冷な気候を好む植物が生息していたことも判明した。最近ではトナカイも生息していたことを確認した。これらの資料は可能な限り年代測定をおこない、時間の経過による環境の変化を把握することとしている。この研究は、考古学だけではなく、古生物学・古植物学・土壌

堆積学・年代測定学などの多くの分野の研究者との共同研究として進めている。今後は、考古学的な発掘調査によって、旧石器と動物遺体と植物遺体を同時に発掘し、それらの年代を明らかにして、この地域の旧石器文化の解明を進める予定である。



<おわりに>

以上、この企画展示の機会に、現在の旧石器時代の研究状況と筆者が進めている茨城県花室川沿岸の調査について紹介してきた。花室川の調査によって旧石器時代の狩猟など旧石器文化の理解が進むことを願っている次第である。

【文責 文化科学研究科 日本歴史研究専攻 西本豊弘教授】

「先導科学研究科オープンキャンパス開催」

去る1月8日（金）及び9日（土）の2日間にわたり、葉山キャンパスに於いて先導科学研究科（生命共生体進化学専攻）のオープンキャンパスが実施され、晴天の中、昨年度を超える参加者が来学しました。

両日とも、全国各地から集まった参加者に対し、本学の教員から、それぞれの研究分野・研究テーマについてパワーポイント等を用いた説明があり、積極的な質疑応答が繰り返されました。

また、研究分野等の紹介が終わった後は、研究テーマごとのポスターセッション、在学生からのメッセージ及び教員や在学生との情報交換会を行い、実際の大学の雰囲気を感じ取る機会を持ち、翌日には、在学生や教員とともに参加者全員が各研究室を回り、最先端の研究が行われている現場を見学しました。

その後も各教員との個別相談が予定時間を超えて続けられ、無事解散となりました。



【各種募集】・・・現在公募中の情報を掲載しています。

事 項	応募期間	提出先
国立天文台滞在型研究員	随時(滞在希望初日の前月1日まで)	国立天文台研究支援係
http://www.nao.ac.jp/Jobs/Job000175.html		
国立天文台研究集会(第2回)	平成22年6月30日(水)	国立天文台研究支援係
http://www.nao.ac.jp/Jobs/Job000191.html		
国立天文台特別共同利用研究員	4月受入 平成22年3月1日(月) 10月受入 平成22年9月1日(水)	国立天文台研究支援係
http://www.nao.ac.jp/Jobs/Job000192.html		

【イベント情報】・・・オープンキャンパス, 入試説明会, 入試など大学行事に関わるもの。

3月

日程	時間	行事名	場所
8日(月) -10日(水)	8日:10:00 -10日:13:30	総研大 アジア冬の学校 ゆらぎと構造形成 宇宙科学の最前線	JAXA相模原キャンパス
http://www.isas.jaxa.jp/sokendai/winter_school/indexJ.html			
19日(金)	12:00-14:00	統計科学専攻 平成21年度第2回学生研究発表会 ポスター発表	統計数理研究所 2F大会議室前
23日(火)		学術交流会	湘南国際村センター(予定)
24日(水)		学位記授与式	葉山キャンパス
24日(水)		長倉研究奨励賞・総合研究大学院大学 研究賞 発表会・授与式	葉山キャンパス

4月

日程	時間	行事名	場所
8日(木)		入学式	葉山キャンパス

<基盤機関の行事>

2月

日程	時間	行事名	場所
2日(火) まで	10:00-17:00 (入館は 16:30 まで)	2009 年度 年末年始展示イベント「とら」	国立民族学博物館常設展示場内
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/eto/2010tora.html		
6日(土)	13:30-19:30	研究フォーラム「日本の人類学における韓国研究—その歴史的現在」	国立民族学博物館 第4セミナー室
7日(日)	13:00-16:30	「おおすみ」40周年記念シンポジウム 日本の宇宙科学の歴史・ペンシルからラムダ、ミュー、そして未来へ および特別展	国立科学博物館(上野本館) 会議室および展示室 (JAXA と国立科学博物館の共催)
2月7日(日)/ 3月20日(土)/ 3月21日(日)		春のみんぱくフォーラム 2010 年—西アジア 再発見関連イベント絵本読み聞かせ「絵本で旅する、詩の国イラン」	国立民族学博物館 2月7日:エントランスホール 3月20日・3月21日:西アジア展示場
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/w-asia_renewal09_sp.html		
9日(火)	10:00-16:00	マルコフ連鎖モンテカルロ法の基礎と実践 (2010年版)	統計数理研究所 (立川) 大会議室
	http://www.ism.ac.jp/lectures/21p.html		
2月9日(火) -3月7日(日)		ミニ企画展示:和宮ゆかりの雛かざり	国立歴史民俗博物館
12日(金)	18:30-19:30 (受付時間)	定例観望会	会場:国立天文台 三鷹キャンパス
	http://www.nao.ac.jp/about/mtk/StarGazing/schedule.html		
13日(土)	11:00-12:00	歴博探検「古墳のたからもの」	国立歴史民俗博物館
13日(土)	14:00-16:00	第314回歴博講演会 「正倉院文書を複製する」	国立歴史民俗博物館
14日(日)	14:30-15:30	春のみんぱくフォーラム 2010 年—西アジア 再発見関連みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう「中東の音楽風土を探る」	国立民族学博物館 西アジア展示場
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/w-asia_renewal09_sp.html		
17日(水)	18:30-19:45	国立情報学研究所 市民講座 「膨大な文書の処理技術—テキストの山を斬って見えてくるものは?—」	学術総合センター 2階中会議場 主催 国立情報学研究所
	http://www.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=315		

20日(土)	13:30-15:00	第381回みんなぱくゼミナール 「あたらしいアフリカ展示のメッセージ」	国立民族学博物館 講堂
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar09.html		
27日(土)	13:30-15:30	第131回くらしの植物苑観察会 「造花にこめられた春の祈り」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
27日(土)	18:30-19:30 (受付時間)	定例観望会	会場:国立天文台 三鷹キャンパス
	http://www.nao.ac.jp/about/mtk/StarGazing/schedule.html		

3月

日程	時間	行事名	場所
6日(土)	13:00-17:00	国際シンポジウム「子どもたちにとっての未来社会—北欧の思想と実践」	国立民族学博物館 講堂
	http://www.minpaku.ac.jp/research/dp/20100306.html		
7日(日)	趣旨説明: 10:00-10:40 セッション Ⅰ: 10:20-12:30 セッション Ⅱ: 13:30-17:00	国際シンポジウム「広がる教育空間—子どもたちのウェルビーイングから考える—」	国立民族学博物館 第4セミナー室
	http://www.minpaku.ac.jp/research/dp/20100307.html		
12日(金)	18:30-19:30 (受付時間)	定例観望会	会場:国立天文台 三鷹キャンパス
	http://www.nao.ac.jp/about/mtk/StarGazing/schedule.html		
13日(土)	14:00-16:00	第315回歴博講演会「日本の家族の行方」	国立歴史民俗博物館
16日(火)	12:00	第6展示室「現代」オープン	国立歴史民俗博物館
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/regular/room_06.html		
18日(木) -19日(金)	18日(木) 10:00-18:00 19日(金) 10:00-17:00	統計数理研究所 平成21年度研究報告会	統計数理研究所 2F大会議室
20日(土)	13:30-15:00	第382回みんなぱくゼミナール 「トンガの王様と民主主義」	国立民族学博物館 講堂
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar09.html		
22日 (月・祝日)	13:30-16:00	春のみんなぱくフォーラム2010年—西アジア 再発見関連研究公演「アラブ・アンダルシア 宮廷音楽の響り—<モロッコの花>アミナ・ アラウィの典雅な歌声」	国立民族学博物館 講堂
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/w-asia_renewal09_sp.html		

27日(土)	13:30-15:30	第132回くらしの植物苑観察会 「村絵図を持って村を歩こう」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
27日(土)	18:30-19:30 (受付時間)	定例観望会	会場:国立天文台 三鷹キャンパス
	http://www.nao.ac.jp/about/mtk/StarGazing/schedule.html		
28日(日)	10:30-16:30	春のみんぱくフォーラム 2010年—西アジア 再発見関連 MMP ワークショップ「じゅうたん をつくろう！」 (じゅうたんを仕上げよう！)	国立民族学博物館エントラン スホール &ピクニック先は当日発表
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/ws_carpet100117.html		

4月

日程	時間	行事名	場所
9日(金)	19:30-20:30 (受付時間)	定例観望会	会場:国立天文台 三鷹キャンパス
10日(土)	13:30-17:00	第29回宇宙科学講演と映画の会	新宿明治安田生命ホール JAXA 主催
24日(土)	19:30-20:30 (受付時間)	定例観望会	会場:国立天文台 三鷹キャンパス

<教員の受賞情報等>

複合科学研究科

極域科学専攻

○ 中村卓司 教授

地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞 受賞

<新刊書のご案内>

国立情報学研究所『情報研シリーズ』

「石頭なコンピュータの眼を鍛える —コーパスで人間の視覚にどこまで迫れるか—」

佐藤 真一 (国立情報学研究所教授)、齋藤 淳 (サイエンスライター) 著

新書版・168P 定価 798円 (税込)

ISBN: 978-4-621-05378-2

・「情報研シリーズ」の紹介URL:

(<http://www.nii.ac.jp/books/maruzen-lib/index-j.shtml>)

・概要: 笑顔が分かり、狙った顔にビシッとピントを合わせてくれるデジカメの顔認識機能の研究など、映像理解技術の最先端を紹介する。

【編集後記】

2月3日は節分です。節分は季節を分けるという意味で立春、立夏、立秋、立冬の前日を指しますが、一般的には2月の立春の前日を指すことが多いようです。冬の節が終わって春の節に移る時で、暦の上では明日からは春になります。節分の日に豆をまいたり、柊の枝に鯛の頭を刺したものを戸口に立てたりするのは、季節の変わり目には邪気が生じると考えられており、それを追い払うためです。豆をまいて邪気を追い払い、すがすがしい気分で春を迎えたいものです。

さて、今月はセンター研究プロジェクトの全体報告会がトップニュースです。来年度以降センターは新しい組織になり、事業内容も大幅に変わりますが、ここで推進された研究成果が今後なんらかの形で継続していくことを期待しております。

暖かかったり寒かったりで寒暖の差が大きく、風邪をひいている方も多いようです。健康に留意してこの冬を乗り切りたいものです。春はもうそこまでです。

〔総務課〕

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、発表や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と表記していただけますようご協力をお願いします。

発行 2010年2月3日

編集



国立大学法人

総合研究大学院大学

THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

総務課広報係（担当）

TEL 046-858-1590/FAX 046-858-1542

E-mail: kouhou@ml.soken.ac.jp

©2009 SOKENDAI